

# The 26th Annual Local Meeting (The Hokuriku Federation) of The Japanese Society of Clinical Cytology

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/19735">http://hdl.handle.net/2297/19735</a>

## 『学会開催報告』

第26回日本臨床細胞学会  
北陸支部連合会学術集会  
The 26<sup>th</sup> Annual Local Meeting  
(The Hokuriku Federation) of The Japanese  
Society of Clinical Cytology

金沢大学医薬保健研究域医学系 形態機能病理学  
原 田 憲 一

平成21年9月19日に日本臨床細胞学会 北陸支部連合会学術集会を金沢大学附属病院 宝ホールにて、お世話させていただきました。日本臨床細胞学会石川県支部は細胞診専門医、認定病理医、臨床医、細胞検査士、臨床検査技師等を会員として昭和59年に設立され、また同年に福井県、富山県と共に日本臨床細胞学会北陸支部連合会も設立され、今年度で26回目の学術集会となります。当初、石川県支部の会員数は少数ではありましたが、現在は139名と北陸三県で最も多い会員数を誇っております。さらに平成15年には、細胞検査士の知識向上と臨床細胞学の進歩と普及を図ることを目的として日本細胞診断学推進協会細胞検査士会石川県支部を設立し、年に一回の総会と数回の症例検討会等を細胞診専門医とともにこなしております。本学術集会は、会員の方々を対象に、細胞診断学の教育および最新の知見を紹介しながら、北陸三県の会員相互の意見交流を主旨として行われています。

今回の一般演題は、湊宏先生(金沢医科大学病院病態診断医学)、金谷太郎先生(金沢医療センター産婦人科)、齋藤勝彦先生(富山市民病院中央検査部病理診断科)の方々に座長を御願ひし、「腎尿で尿管原発が疑われた神経内分泌癌の1例」(富士井孝彦先生他、国立病院機構 金沢医療センター 臨床検査科)、「尿管炎症性偽腫瘍の細胞診、過剰診断を避けるための細胞所見の検討」(中川加奈子先生他、パソロジー研究所)、「悪性リンパ腫と鑑別困難だった乳腺内壊死性リンパ節炎の1例」(水野幸恵先生他、福井県立病院検査室 病理細胞診検査)、「子宮頸部細胞診におけるTACAS®の評価検討」(尾崎聡先生他、金沢大学附属病院病理部)、「子宮体部癌肉腫の2例」(朝倉善史先生他、金沢医科大学病院病理部)、「子宮腺肉腫の1例」(二口明奈先生他、富山市民病院中央研究検査部臨床検査科)、「セルトリ細胞腫の1例」(橋本哲夫先生他、公立能登総合病院)、「術中捺印標本が診断に有用であった2症例」(久富元治先生他、金沢大学附属病院病理部)、「胸水中に出現した悪性黒色腫の1例」(酒井哲也先生他、富山県立中央病院臨床検査部検査科)の9演題の御発表をいただきました。いずれも大変興味ある症例や問題症例、また診断学の創意工夫に関する内容で、フロアからは自験例や各病院での工夫に関する活発な質疑応答がなされた。また、スライドセミナーでは高川清先生(黒部市民病院臨床検査科)に婦人科領域、川島篤弘先生(金沢医療センター臨床検査科)に呼吸器領域、海崎泰治先生(福井県立病院臨床病理科)に乳腺領域の教育的または示唆に富む症例の呈示を御願ひし、座長 河原栄先生(金沢大学医薬保健学域保健学類)のご進行により活発な討論がなされました。さらに、特別講演として座長寺畑信太郎(富山県立中央病院臨床検査科)、演者 國實久秋先生

(獨協医科大学越谷病院病理部)に御願ひし、演題名「胆道系細胞診のみかた」の講演を拝聴しました。胆汁細胞診は難しい領域のひとつですが、その理由として、胆道系細胞の明確な判定基準が確立されていないこと、毒性の強い胆汁内に出現する細胞の為に変性が加わりやすいこと、出現する細胞が少ないことなどが挙げられます。現在、本邦にて用いられている日本臨床細胞学会班研究広岡班「貯留胆汁細胞診の判定基準」をご説明いただき、多くの擦過細胞診、ブラシ細胞診の症例を供覧しつつ、実践的な胆汁細胞診の実際および診断方法をご紹介いただきました。また、胆汁中に出現する胆道系細胞のみならず、現在では稀となりました虫体や虫卵の細胞像などもご紹介いただき、拝聴者からは大変有意義な講演と好評でした。胆道系異型上皮の定義、また異型上皮を経由した発癌機構に関しては、他の臓器に較べ、未だ明らかにされていない点が多くあります。近年、ようやく私どもの教室から胆道系異型上皮に関する胆管上皮層内腫瘍性病変(BiILN)分類の提案をするにいたりました。今後、胆道系細胞の異型度分類がBiILN分類を基に一般病理医にも広く認知され、近々胆道系細胞診にも応用できると期待しております。

学術集会当日は、シルバーウィークの初日にもかかわらず、北陸3県より多数の細胞検査士および細胞診専門医の方々に御来場頂き大変有難うございました。また、本総会にご支援を頂きました金沢大学十全医学会をはじめ平野純薬工業株式会社、アプカム株式会社、片岡薬品株式会社、株式会社ニチレイバイオサイエンス、株式会社コムラ、富木医療器株式会社、株式会社シーピーエル、白井松器械株式会社の各企業ならびに運営に携わっていただきました株式会社メディカルアートの方々に深く御礼を申し上げます。

